

平成 27 年 度

卒業研究発表会プログラム

日 時 平成 28 年 2 月

15 日 (月) 13:00 ~ 14:30 【制御機械科】

16 日 (火) 13:00 ~ 16:45 【電子情報科】

17 日 (水) 9:00 ~ 15:40 【国際経営科】

会 場 庄内校 5 階 「大講義室」

山形県立産業技術短期大学校庄内校

〒998-0102 酒田市京田3丁目57-4 TEL0234-31-2300

平成27年度 山形県立産業技術短期大学校庄内校

卒業研究発表会プログラム

平成28年2月15日(月) 開会 (13:00～)

学科名 制御機械科

番号	時間	テ ー マ	要 旨	発表学生	指導教員
1	13:00	3Dプリンターを用いた小型ロボット掃除機の開発	近年、国内外の多くのメーカーで盛んにロボット掃除機が開発されている。それらは比較的大きく卓上への掃除には向かない。そこで、本研究で、卓上に乗る小型のロボット掃除機を開発したので報告する。筐体の製作には3Dプリンターを用いた。	阿部 力也	工藤 誠
2	13:15	農業用不整地走行車両の開発	農業現場における不整地を走行できる運搬車両を開発する。	門脇 史弥 八敷 稜	宮下 智
3	13:30	生体硬組織の圧縮試験における片当り軽減のための加圧治具の製作	生体硬組織に対する圧縮試験では、試験片を立方体などの理想的な形に作製することが困難なため、試験開始時に加圧治具と試験片が片当たりしてしまう。そこで、この片当りを軽減するために、試験片の形状に合わせて角度が変化する加圧治具を作製して、模擬的な実験により性能評価を行う。	五十嵐 渉	小笠原 誠
4	13:45	NC旋盤による転造加工の切削条件検証	NC旋盤を使用して転造加工を行う場合、切削条件等を変えることで製品にどのような変化が表れるのかを確認し検証する。	足達 誉志樹	津田 勇
5	14:00	エコラン競技車両の製作	本田宗一郎杯 Hondaエコマレッジチャレンジ全国大会出場に向けた車両を製作する。	三浦 恵子 阿部 孝徳	津田 勇

14:15 講 評
14:30 閉 会

平成28年2月16日(火) 開会 (13:00～)

学科名 電子情報科

番号	時間	テ ー マ	要 旨	発表学生	指導教員
1	13:05	電子情報科の今年度の卒業研究統一テーマ「IoTハッカースペース2」	電子情報科では、卒業研究としてプロジェクト型課題解決実習を導入している。その目的や取り組みの詳細について報告する。	五十嵐 達也	全 員
13:15～13:20 アンケート記入時間					
2	13:20	社名: Electric Energy テーマ: スポーツビジョン(眼と手の協応動作)トレーニング用電子モグラたたきゲーム	眼と手の協応動作は、自動車の運転やスポーツなど、生活に密着した技能の向上に不可欠な能力である。そこで、小学生から高齢者までを対象として、1人または2人で楽しく能力向上トレーニングができる装置を構築した。	小野寺 駿 佐藤 大智 五十嵐 達也	吉田 明弘
14:00～14:05 アンケート記入時間					
3	14:05	社名: Support Education Company テーマ: 習熟度別授業のためのe-Learningコンテンツ作成支援システム	電子情報科では学生の習熟度の差を埋めるために、自学自習の機会を増やすことを目的としてe-Learningシステムを導入している。情報処理技術者試験の小テストや、解説動画、授業風景を収録したビデオ教材コンテンツの充実を図るとともに、ビデオ教材の作成時のノウハウを集大成した。	和田 素緒 齋藤 知樹 飯田 和希	布宮 拓 開沼 和広
14:45～14:50 アンケート記入時間					
14:50～15:00 休 息					
15:00～15:05 来場者紹介					
4	15:05	社名: ARB Information テーマ: Twitterとビーコンを利用したお客様誘導システム	TwitterとBLEビーコンを使って、お客様を特売商品の売り場まで誘導するスマホアプリを開発した。小売店担当者が特売商品情報をTwitterにつぶやくと、店舗売場に設置したBLEビーコンが店舗に入って来たお客様を売り場に誘導してくれる。	成澤 俊太 田澤 大志 佐々木 広人	阿部 功
15:45～15:50 アンケート記入時間					
5	15:50	社名: Next Future Communication テーマ: 災害時の所在管理もできる出席確認システム	NFCタグとAndroid端末とTwitterを用いた出席所在管理システムを開発した。教室入口に設置したNFCタグに自分のスマホをかざすだけで出席登録を行うことができる。また、第二期(来年度)以降はシステムをクラウドサービスに移行し、災害時の所在確認もできるシステムとなる。	安達 直紀 鈴木 翔太 和田 悠樹	岡崎 徹 木村 宏人 阿部 功
16:30～16:35 アンケート記入時間					

16:35 講 評
16:45 閉 会

※テーマ内の「社名」は、課題解決を行うプロジェクトチームを会社に見立てて付けたチーム名である。

平成28年2月17日(水) 開会 (9:00~)

学科名 国際経営科

番号	時間	テーマ	要 旨	発表学生	指導教員
1	9:05 ~9:25	ソーシャルゲームビジネスに関する考察	近年、基本的に料金は無料にして多数のユーザーを獲得し、その中から少数の課金者を作り出して収益をあげる「フリーミアム」と呼ばれるビジネスモデルが登場している。本研究ではそのビジネスモデルの代表格でもある「ソーシャルゲーム」を用いて考察していく。	岡部 優士	鷹森 直也
2	9:25 ~9:45	財務分析から見たMVNO	MVNO(仮想移動体通信事業者)と呼ばれる業者が提供している格安SIMや格安スマホはスマートフォンの利用料金を安く抑えて使用できるというメリットがある。そこでMVNOは従来のMNOと比較してどのような経営体質なのか財務分析を用いて、「成長性」「収益性」「安全性」の3つの観点から分析していく。	工藤 雅	
3	9:45 ~10:05	東京ディズニーランドとディズニーランド・パリの現状比較に関する考察	同じキャラクターや世界観で構成されたテーマパークである、東京ディズニーランドとディズニーランド・パリの経営成績には大きな差異が生じている。この差異が生じている原因を、パークを運営する二社の財務諸表を用いて比較考察する。	佐藤 真実	
4	10:05 ~10:25	映画館ビジネスと地域振興についての考察	鶴岡市にある「まちキネ」など、現在、地域振興として映画・映画館が注目されている。一方で、娯楽の多様化やシネコンの影響から歴史ある映画館が次々と閉館しているという映画館ビジネスの現状をふまえ、地域振興としてのミニシアターの可能性について考察する。	鈴木 梢	
休 憩 10:25~10:35					
5	10:35 ~10:55	深夜アニメのキャラクタービジネスの物販の売上等からみた人気の比較	キャラクターとは、グッズや広告媒体などの「独自の世界観を持ち、年齢を重ねないもの」として定義されている。それを活かしたビジネス「キャラクタービジネス」を深夜アニメ「けいおん！」と深夜アニメ「ラブライブ！」のCD、音楽ライブ、映画、グッズ等で比較していく。	富樫 一哉	佐藤 圭治
6	10:55 ~11:15	わが国における収益認識の考察	近年のグローバル化に伴いわが国でも国際財務報告基準(以下IFRS)を採用、検討している企業数が増えている。そこで収益認識を卒業研究のテーマとし、わが国の収益認識の現状とIFRSの収益認識について調査し、今後のわが国の収益認識のあり方について考察する。	金子 拓馬	原田 文規
7	11:15 ~11:35	のれんの会計処理に関する考察	企業買収において被取得企業の潜在的価値はのれんとして認識される。のれんの会計処理は、日本基準、IFRSの間では異なっており、その違いが利益額に大きな影響を及ぼしていると言われる。ここでは利益への具体的影響額を挙げながら、のれんのあるべき会計処理について考察していく。	佐藤 元気	
8	11:35 ~11:55	業種別にみる原価計算の形態の考察	原価計算は、大きく分けると生産形態によって個別原価計算と総合原価計算の2つの形態に分けることができる。実際に各企業はどのような原価計算の形態を採用しているのか、東京証券取引所に上場している企業を題材として分析し業種ごとの特性を明らかにしていく。	佐藤 海花	
お 昼 休 み 11:55~13:00					
9	13:00 ~13:20	宅配便の現状と展望に関する考察	宅配便の取扱個数は、ネットショッピングの普及により上昇している。また、宅配便市場は、上位集中化が進んでおり各社は時代に合ったサービスを提供している。宅配便を取り巻く状況は、再配達増加や環境問題などの課題がある中で、宅配便の現状と展望について考察する。	佐藤 茜	渡邊 誠士
10	13:20 ~13:40	在宅介護の現状と課題に関する考察	超高齢社会に対応するため介護保険制度が導入された。介護保険制度施行後、介護サービスの利用者数は施設サービスと在宅サービスを比較すると、在宅サービスが増加している。介護サービスの現状を踏まえ、在宅介護を中心として現状と課題を考察する。	佐藤 大晃	
11	13:40 ~14:00	ICT利活用の促進に関する考察	情報通信技術(ICT)は、インターネットの普及を機に大きく進展し、日本経済に影響を与え、私たちの日常生活に広く浸透していった。また、ICT利活用は地域活性化にも期待されている中で、多様な分野におけるICTの効果的な利活用の促進について考察する。	五十嵐 瑞瑛	
12	14:00 ~14:20	食料品アクセス問題と移動販売についての考察	高齢化に伴って食料品購入に困難を来す食料品アクセス問題を対象に、その対策としての移動販売の優位性・非優位性を明らかにするとともに、移動販売が食料品アクセス問題の最も有効な解決方法となるための取り組みについて考察する。	後藤 真美	佐々木 健
休 憩 14:20~14:30					
13	14:30 ~14:50	観光ビジネスを通じた鶴岡市の地域活性化に関する考察	山形DCキャンペーンのような観光を通じた地域活性化・交流人口拡大の取り組みが多い山形県の現状を踏まえ、地元である鶴岡市の地域活性化に向けた観光資源の掘り起しと観光ビジネスの活用について、他県の先行事例も取り上げながら考察する。	佐藤 茉喜	佐々木 健
14	14:50 ~15:10	山形県の学校給食における地産地消活動の考察	平成23年に採択された山形県食育・地産地消推進計画を踏まえて、学校給食における地産地消活動の現状と今後の課題について、各市町村における取り組みの事例も取り上げながら考察する。	渡部 はるみ	
15	15:10 ~15:30	ふるさと納税制度に関する考察	人口の流出に伴う収収額の低下を地域と都市部で均一化して負担するための制度として、平成20年度に個人住民税の寄付金控除制度が大幅に見直された。ふるさと納税について全国と県内の自治体の状況や、ユニークな取り組みをしている自治体について調べ考察する。	亀井 彩瑚	吉田 勝紀
<p>15:30 講 評</p> <p>15:40 閉 会</p>					



山形県立産業技術短期大学校庄内校の卒業研究

* 卒業研究のねらい

絶え間ない研究心と自らの考え・意見（選択眼）をもって豊かな創造性・感性を向上させ、それを発表できる積極的な学生（企業人）を育てる。

* 卒業研究はどのように行われるか

学生自身が研究テーマを定め（選択し）、企画・立案・調査を行い、それをカタチにしたり、その過程をレポートにまとめて発表する。

企業のチームリーダーになれる人材育成を目的に、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力などを開発する、PBL（Project Based Learning）学習を導入し、少人数グループによる研究も推進している。

* 庄内校は卒業研究にどの位の時間を充てているのか

修業年限は2年で、その約4分の1の授業時間数を卒業研究の時間に充てている。全学科（制御機械科・電子情報科・国際経営科）とも、2年次の後半を卒業研究の時間に充てている。

